

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501639		
法人名	株式会社 ケア・ハート		
事業所名	グループホームあかしあ のんびり館		
所在地	札幌市豊平区中の島1条7丁目8-1		
自己評価作成日	平成30年8月31日	評価結果市町村受理日	平成30年10月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JigyosyoCd=0170501639-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成30年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は地域資源の活用や交流の機会が多く、生活に楽しみや生きがいを持って過ごせている方が多いと感じる。近所の美容室や喫茶店、お菓子屋さんを利用したり、町内会行事の運動会などへの参加、未就園児のお母さん方からなるサークルの七夕や夏祭り、ハロウィン、クリスマスなどのイベント協力、ボランティアさんによる楽器演奏や手品、カフェの催しなども行っている。普段からも事業所の職員は毎日楽しみを感じられるようにと様々な活動やレクリエーションの企画を行っている。職員自身もやりがいや楽しみを感じながら取り組んでいるのだと感じる。職員に対しては、個々の能力に応じた研修参加や資格取得の機会を設けたり、できるだけ残業なく、希望の休暇を取れるように努めている。食事会など職員間での親睦を深める機会も定期的に作ったりと働きやすい環境づくりに力を入れている。そのためかこの2年離職者なく、利用者とも馴染みの関係ができています。昨年度からは家族会を実施。普段言えない悩みや思いをご家族同士で共有できる事で気持ちの負担を軽減、解消していけたらと思い、今後も定期的にも実施する予定をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成14年7月開設で平成24年に現在地に新築移転した木造2階建て2ユニット(定員:18名)の認知症対応型共同生活介護事業所(グループホーム)です。
職員の離職は少なく安定したケアサービスを提供していると共に日々のリズム体操、嚥下体操等を取り入れ身体機能の維持・向上に努め日常生活上でのハビリに取り組んでいる。
一人ひとりのその日の希望に沿って、大通公園バラ園や寒地土木研究所での花見見物、円山動物園や雪祭り見物、藻岩山展望台や旭山記念公園散策など戸外に出かけられるよう支援に努めている。
また、町内会の大運動会や盆踊り大会参加、近隣の子ども達による七夕イベントへの協力、地域ボランティアの協力を得てマジックショーやミニコンサート、ボランティアカフェの開催など地域の人々との交流や連携に取り組んでいる。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらい				2 家族の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらい
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある			○	2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらい				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらい				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらい				2 職員の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 職員の1/3くらい
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらい				2 利用者の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 利用者の1/3くらい
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらい				2 家族等の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 家族等の1/3くらい
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらい				
			3 利用者の1/3くらい				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護事業を通じて地域社会に貢献するという理念の下、職員間で共有し、近隣の住民との行事交流や意見交換など定期的に行っている。	事業所独自の理念を作り、ミーティングやモニタリング等を通じて職員間で話し合い、その理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域にある美容室や喫茶店の利用。その他運動会などの町内会行事への参加。地域のお母さん方のサークル活動と連携や協力し夏祭りやハロウィンなどの行事を一緒にしている。	町内会の大運動会や盆踊り大会参加、近隣の子ども達による七夕イベントへの協力、地域ボランティアの協力を得てマジックショーやミニコンサート、ボランティアカフェの開催など地域の人々との交流や連携に取り組んでいる。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に運営推進会議や行事への参加を促し、その中で認知症の人の様子や活動状況を知ってもらい理解を深めてもらっている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動報告の他、職員研修の状況や事故事例など報告し、そこでのご意見を都度今後のサービスに活かさせて頂いている。	運営推進会議を年6回を目安に開催し、事業所の取り組み状況や緊急時の対応等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とのメールでのやり取りの中での実情報告や地域包括支援センターの職員との定期的な情報交換など行い協力関係を築けるよう努力している。	市担当者及び包括支援センターとは、日常業務を通じて定期的に情報交換を行い、助言等を得ながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度指針の見直しと共に身体拘束適正化委員会を設置開催を行う。会議の内容は全ての職員に周知している。その他内外部への研修参加など行い、身体拘束をしないケアの実施に取り組んでいる。今後も委員会や研修について定期的に実施する予定を組んでいる。	身体拘束適正委員会を設け、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を内部研修会の開催や外部研修会参加等で正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会で、スピーチロックについて具体的研修内容について話し合われているので、その実践に期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外部への研修にて高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、全ての職員で虐待が見逃ごされる事がないよう日々入居者の様子や状態を注意し観察している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、必要に応じて個々の必要性について関係者と話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面や口頭説明により理解・納得が得られるように努めている。その都度不安や疑問点がないか尋ね確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、電話や来訪時に家族へ本人の生活状況などお伝えし意向等について話し合っている。重要事項説明書に相談や苦情申し立ての窓口を明記し、契約時に説明している。	苦情等の第三者機関の申し出先を明示している。また、家族の来訪時等に意向や要望等について話し合う機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、普段から会議や面談等で話し合いの機会を持ち、職員の意見や提案について検討し、運営に反映させている。	日常業務や個人面談の実施等で職員の意見や要望、提案等を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者より定期的に職員個々の努力や勤務状況の報告を受け、給与水準や賞与の見直しを行ったり、職員の研修参加や資格取得に力を入れ向上心を持って働けるよう努めている。また残業なく希望の休みをとれるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者に年間研修計画を立案させ、計画に沿って、法人内外の研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者には地区管理者連絡会や在宅ケア連絡会への出席、その他の職員には研修参加の機会を通じて同業者との交流、ネットワークづくりの機会を持ち、日々のサービスに活かしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の安心を確保するためにも傾聴や理解的態度の姿勢を常に心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望などに耳を傾けながら、家族の立場に立った言葉かけを心掛けている。面談の時間も十分に取れるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な情報収集後に社会資源も含めたサービスの必要性など検討の上、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	援助者ではなく支援者であるという考えの下、本人の自発性や能力を活かせるような活動の機会、例えば台所での調理や片付けのお手伝いなど職員と一緒に協力して行う等している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、行事への参加や外出の機会、病院受診の付き添いなど積極的に協力して頂き、共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族了承の下、親戚や友人の面会など気軽にして頂けるよう伝えている。美容室や買い物などの外出支援を個々に合わせて行っている。	馴染みの美容室や喫茶店訪問、町内会の大運動会参加や夏祭りの開催で馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな利用者に対しては、職員が介入し他者との良好な関係が築けるよう努力、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族の希望に応じてアドバイス等の支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中から、思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人の生活歴や習慣など参考に本人本位となるよう努めている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を定期的なカンファレンスの実施で職員間で情報を共有して、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを把握するために、本人やご家族の他、可能であれば友人や各関係機関等にも協力して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの様子や活動状況を記録に整理し、アセスメント用紙を活用しながら本人の現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に本人や家族の意向や医師、看護師の意見など確認した上で、定期的にカンファレンスを実施。職員それぞれの意見やアイデアを反映し介護計画の評価・見直しを行っている。	家族の意見や要望、医師・看護師からの指導や助言、カンファレンスやモニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映して、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には都度、見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録は、介護計画に沿ったものとなっているため見直しに活かしている。情報の共有は毎日の申し送りで行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各書類の手続きや病院受診の付き添い、買い物等基本ご家族にお願いしているが、状況に応じて代行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園や飲食店などの利用や町内会やボランティアの協力により、運動会等の行事参加、演奏や手品などの鑑賞など暮らしを楽しむ事ができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に合わせ、医療機関との協力、関係づくりに努めている。受診が必要と思われる時には都度、本人家族に経過や状況を伝え判断して頂いている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、往診の利用や看護師との連携、日常の健康管理で適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段から職場内の看護職員や当事業所の協力医療機関の看護師へ日常の様子や気づきを伝え相談できる関係ができています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会可能であれば頻繁に伺う等し、不安の軽減を図っている。その都度病院関係者から本人の様子や治療経過など確認し、回復次第早期退院できるよう意向を伝えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	主にサービス開始前や本人の心身状態の変化に伴い話し合いの場を持っている。重度化や終末期のあり方については、事業所の指針として書面による説明と同意を得ている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。また、ターミナルケアを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の救命救急講習の実施。急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、いつでも確認できるよう業務ファイル内や事務所に掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の他、毎日防火自主点検を実施。防災マニュアルの掲示。また運営推進会議で災害時の協力体制等について地域の方と定期的に確認している。	自然災害(地震、風水害等)の対応について地域と協力体制を構築できるよう話し合っている。また、自主防災訓練の実施、火災避難訓練を年2回実施して昼夜を問わず避難できる方法を身につける訓練をしている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	倫理規定やマニュアルを作成。職員は1人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を内部研修会の開催やミーティング等で話し合い、職員間で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活場面全てにおいて、本人の意向を確認しながら支援するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	事業所での一日の流れはあるが、可能な限り一人ひとりのペースで希望に応じられるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援が必要な方には、本人の好みなど理解した上で洋服を選んでもらっている。お化粧や髪がたなど本人本位でしてもらい、その様子を褒めるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力や好みに合わせ、調理や盛り付け、配膳、後片付けなど協力して行っている。楽しみや役割として定着している方もいる。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、食事の準備や後片付けなど職員と一緒にしている。また、近所の喫茶店のスタッフさんがボランティアで来訪して、コーヒーを入れてくれており、楽しみごとのひとつとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量が少ない方や栄養バランスが悪い方については、補助食品を利用したりしている。水分量については、個々に合わせ随時声掛け促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に本人の能力に合わせた口腔ケアを行っている。職員は月1回歯科医から口腔ケアについて指導を受け、日々の支援に活かしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の排泄のパターンや習慣、様子の変化に応じて誘導を行うようにしている。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握して、トイレでの排泄や排泄の自立へ向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い野菜の使用や朝食時にヨーグルトを出すなど工夫している。毎日体操や散歩に出掛ける時間を設けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	生活リズムや血圧の変動など考慮し、入浴は午後からとしている。都度本人の希望を確認した上で入浴支援を行っている。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴支援をしている。また、拒否の強い本人にも柔軟な対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や就寝は本人のペースで行ってもらっている。職員は安心して気持ちよく眠れるようにと部屋の明るさや温度、物音などに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の目的や効果、用法、容量について診察記録やお薬の情報シートで確認している。服薬支援は担当者が責任もって行い記録する。症状の変化については、すべての職員で確認するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の散歩や台所のお手伝いなど楽しみや役割として行っている方もいる。コーヒーが好きな方が多いため定期的にボランティアしてくれる近所の喫茶店のスタッフさんの来訪には皆さん喜んでいいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩や買い物支援の他、定期的に戸外での行事を企画。今年度は町内会の運動会や近隣の夏祭り、サンピアザ水族館などにも出掛けている。個々にご家族と食事や墓参り等に出掛けている方もいる。	一人ひとりのその日の希望に沿って、大通公園バラ園や寒地土木研究所での花見見物、円山動物園や雪祭り見物、藻岩山展望台や旭山記念公園散策など戸外に出かけられるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所では、過去に金銭の紛失トラブルなどもあったため、現在ご家族に全て管理して頂いている。買い物については、事業所が料金を立て替え、後日ご家族に請求する形態をとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話やお手紙でのやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心休まるようにと玄関前や共有スペースに花や植物を置いている。フロア内は小まめに清掃や換気を行い、壁には写真や皆で作った作品など飾り、居心地の良い空間づくりをと努めている。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間には、季節毎の飾り付けや行事参加の写真の掲示などで季節感や生活感を採り入れ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の居間にはソファを置いているが、利用している人は少ない。一人になれたり、気の合った利用者同士で過ごせる場として、個々の居室を利用している方が多い。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が安心して過ごせるようにと使い慣れた物や家具、写真などを持ち込んで頂くようお願いしている。	居室には、馴染みの家具や寝具、仏壇等が持ち込まれるなど本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、洗面所、浴室などに手すりを取り付けている。自室や各場所、居室のタンスなどの中が分かるようテープなどで表示を作っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501639		
法人名	株式会社 ケア・ハート		
事業所名	グループホームあかしあ ゆったり館		
所在地	札幌市豊平区中の島1条7丁目8-1		
自己評価作成日	平成30年8月3日	評価結果市町村受理日	平成30年10月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0170501639-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成30年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関りを大切にしており施設が孤立することなく毎日の散歩などで近隣の方との交流もある。各行事での町内会の方々の参加、子供達との交流など同世代の方々以外との交流も積極的にもっている。職員や入居者と相談しながら毎月行事を決めており笑顔の見える支援を職員全員で考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)		1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 利用者の2/3くらいの			○	2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいの				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護事業を通じて地域社会に貢献するという理念の下、職員間で共有し、近隣の住民との行事交流や意見交換など定期的に行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域にある美容室や喫茶店の利用。その他運動会などの町内会行事への参加。地域のお母さん方のサークル活動と連携や協力し夏祭りやハロウィンなどの行事を一緒に行っている。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に運営推進会議や行事への参加を促し、その中で認知症の人の様子や活動状況を知ってもらい理解を深めてもらっている。		
4		3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とのメールでのやり取りの中での実情報告や地域包括支援センターの職員との定期的な情報交換など行い協力関係を築けるよう努力している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度指針の見直しと共に身体拘束適正化委員会を設置開催を行う。会議の内容は全ての職員に周知している。その他内外部への研修参加など行い、身体拘束をしないケアの実施に取り組んでいる。今後も委員会や研修について定期的実施する予定を組んでいる。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外部への研修にて高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、全ての職員で虐待が見過ごされる事がないよう日々入居者の様子や状態を注意し観察している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、必要に応じて個々の必要性について関係者と話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面や口頭説明により理解・納得が得られるように努めている。その都度不安や疑問点がないか尋ね確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、電話や来訪時に家族へ本人の生活状況などお伝えし意向等について話し合っている。重要事項説明書に相談や苦情申し立ての窓口を明記し、契約時に説明している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、普段から会議や面談等で話し合いの機会を持ち、職員の意見や提案について検討し、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は法人内の会議等で管理者から勤務状況や職員との交流などを通して意見を聞く機会を持っており、働きやすい環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格未経験の職員でも長く安心して働けるよう法人内外の研修で学べる機会を作っており、普段介護業務を通して学ぶことが出来るよう指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	区の管理者同士の連絡会や市の管理者会議を通して交流やネットワーク作りをしている。又会議での意見交換を通してサービスの質を向上させる取り組みをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面談の中で本人から生活の状況や要望等についてゆっくり話を聞く場面をつくっている。何でも相談できるような関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期面談や普段の面会時、会議等で意見、要望、悩み等を聞く機会を持っており、何でも相談できるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前にご家族や本人と良く意見交換し職員全員でアセスメントし必要とする支援を見極めるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活を共にする立場で時にはお手伝いをしてもらいながら助けていただきながら生活しており、関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と相談しながら、時には助けていただきながら一緒に本人を支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご兄弟、友人などの面会や、外出などの支援をしており、お互いに関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し皆で一緒に楽しく過ごせるよう関係調整し支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に行かれた方のご家族にお会いした際にはご本人の様子をお聞きたり、その後もホームに訪ねて来られるような環境をつくっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で、本人の希望や意向、思いを把握するよう努めており、定期的にカンファレンスにて検討している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らしの状況をご家族や関係者から聞き取り把握に努めており、入居後も本人やご家族から聞き取りを通して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの1日の過ごし方やその日の本人の様子体調の確認。本人がどれだけ自分で出来るか又得意不得意とすることの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスにてケアプランについての評価やアセスメントをしより良いものになるよう検討しており、ご本人の現状にあったケアプランの作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、その結果など記録し、職員間で情報共有できるようにしており、ケアプラン見直し、評価に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々の状況に応じて柔軟に対応できるよう支援している。遠方からのご家族の来訪や外出。冠婚葬祭等の対応など。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて地域の資源を把握し支援に繋げている。又地域ボランティアさんの来訪などの協力も得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族が納得できるような適切な医療を受けられるよう支援している。かかりつけ医と関係を築きながら安心できるような体制づくりをしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1度訪看がきており、1週間の入居者の体調の変化や様子を詳しく報告、かかりつけ医往診時に適切に診断が出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医と連携をもっている協力医療機関がありスムーズに入退院出来るような体制づくりをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化した場合や終末期に関しての指針の説明をしている。また、重度化した際の家族の意見等をアンケートにて聞いており実際に重度化した際は十分な話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や事故発生時のマニュアルがあり定期的に訓練を行い対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議にて災害時の協力体制や避難場所に関しての話し合いをしており、職員も定期的に話し合いや訓練を実施している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれ個人の人格を尊重した言葉がけや対応を常に出来るよう勉強会や会議等で話し合い反省等する機会を設け対応に気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活するうえで本人が自由に自分の希望や意見を言えるような環境づくりをしており、常に自分で決める事が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	1日の過ごし方を本人に任せておりなるべく自由に生活出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服装が出来るよう支援しており、身だしなみやおしゃれの好みは本人に任せている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど一緒に楽しみながら行っている。食事に関しては好き嫌いがあるのなるべく個人に合わせて支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量は記録につけ把握できるようにしている。本人の体調や習慣、現在の能力についても職員全員で把握するよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後の口腔ケアはその人その人の状態をみながらケア方法を検討し実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握しトイレで排泄できるよう自立支援に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の調整、ヨーグルトなど食品の工夫、便秘予防体操や散歩など運動の工夫等に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	本人の希望に沿って支援している。入浴剤の有無や温度の調整等なるべく希望に沿って気持ちよく入浴出来るよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活状況を把握し、気持ちよく安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容、効能と副作用について書かれたお薬説明書をいつでも見れるようバインダーに整理しており職員全員で把握出来るようにしている。新しい薬が処方された時は全員で共有し注意をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人の得意とすることや楽しみ事などを理解し日々の生活に楽しみや喜びが持てるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って外出している。ご家族と一緒に外出を楽しむ方もいらついたり、地域の方々が主催するお祭りや運動会にも参加している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持や使用は本人やご家族と相談しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は希望に沿い支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は混乱のないように整頓されており、刺激を与えるような音や光にも注意をしている。季節の物や写真で飾りつけし楽しく穏やかに生活出来るよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやゆったりとした家具の配置で、その場の雰囲気や自由で過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人家族と相談しながら使い慣れた家具の使用やレイアウトなどし、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩くのに問題ないよう広々としており、トイレや洗面所、居室などわかりやすく表札を付けている。大きなカレンダーにて日付がわかるよう工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームあかしあ のんびり館

作成日: 平成 30 年 9 月 27 日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に 要する期間
1	6	身体拘束適正化委員会でも、議題としてあがった、普段の関りの中でみられる、「ちょっと待って」などのスピーチロックと言われる拘束について、安全のためなどあるが、縛るなどの直接的な拘束ではないため自覚しにくく、言われた相手にとって場合によっては精神的に大きな弊害を持たせてしまう可能性が高い。	「ちょっと待って」を使わない支援方法の確立	・相手に理解して頂けるよう丁寧な説明を行う。 ・個々の再アセスメントにより、起こりえるリスクを未然に防げるような支援を行う。(ちょっと待ってになる前に予測し対応する) ・職員全体で意識し、定期的に状況を評価する。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。